

人吉市立第一中学校における 武道授業の実践紹介

人吉市教育委員会

武道授業 実践の概要紹介

人吉市は、熊本県の南端に位置し、宮崎県と鹿児島県に隣接する人口約3万3000人の九州山地の遠山に囲まれた盆地の都市である。市の中央部を日本三大急流・球磨川が東西に貫流し、さらに、川辺川など南北から多くの支流が、本流である球磨川に注ぎ込んでいる。本市には、国指定史跡の人吉城跡をはじめ、相良700年の歴史を物語る数多くの重要文化財が存在し、平成27年には「相良700年が生んだ保守と進取の文化」日本でもっとも豊かな隠れ里「人吉球磨」として日本遺産にも指定された。国宝「青井阿蘇神社」をはじめ、神社・仏閣・古い町並み等が点在しており、今もなお落ち着いた城下町のたたずまいを残す、自然の美しさとともに歴史的、文化的遺産に恵まれた温泉の町である。

また、本市では小・中学生が古に触れ、「交剣知愛」の精神を養い、さらに剣道の普及促進、そして、日本の将来を担う青少年の健全育成を目的に、毎年4月末の「日本百名城 人吉お城まつり」において「おどんな日本一全国少年剣道大会」が開催されている。「おどんな」とは人吉球磨地方の方言で「おれは」という意味であり、個人戦、団体戦に九州内外から約千人の剣士が参加してまつりを盛り上げている。人吉市立第一中学校は、昭和24年に開校し、校訓「理想は高く、心清らに」、三綱領「自主、勤労、協和」のもと今日まで実践を積んできている。



大同元年（806）創建の国宝「青井阿蘇神社」

○研究内容

【指導者と経験者】
指導者と剣道経験者で模範を見せる



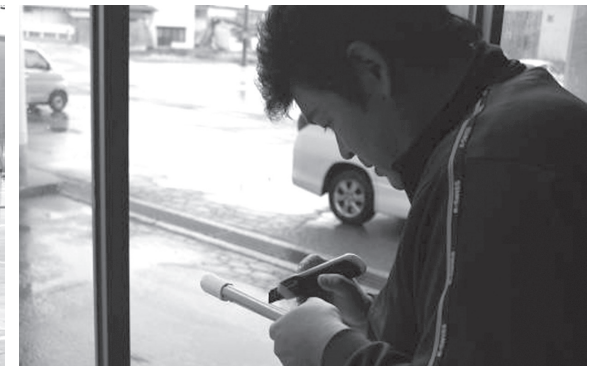
【木刀を使って型の練習】
3年生は木刀で型の練習を中心に行った



【オリエンテーション】
生徒の関心を高めるため模造刀を使って歴史を学ぶ



【竹刀の手入れ】
ささくれがないように1本1本チェック



【授業後のアンケート】
授業後のアンケートと生徒の感想

◎アンケート結果（ア 思う イ 思わない ウ どちらともいえない）

1. 武道に対する意欲は高まった？	ア 18	イ 0	ウ 2
2. 専門的な技能は高まった？	ア 14	イ 0	ウ 6
3. 武道の伝統的な行動の仕方や基本動作が身についた？	ア 18	イ 0	ウ 2
4. 武道の専門的な技能について外部指導者の指導力は優れている？	ア 20	イ 0	ウ 0
5. 外部指導者の言葉づかいや態度は適切だと思う？	ア 20	イ 0	ウ 0
6. 担当の先生と外部指導者が連携した指導により授業は活性化された？	ア 19	イ 0	ウ 1
・剣道はスポ少でやっていたが、剣道の歴史の話は初めて聞いたので、ためになった。（1年男子）			
・足は冷たかったが、基本の動きができるようになってきて楽しかった。（1年女子）			
・応じ技が決まるととても気持ちいい。来年はもっと上手になれるようにがんばりたい。（2年女子）			
・「型」は、やってみると意外と楽しかった。（3年男子）			
・私には、激しい打ち合いよりも「型」が合っていると思った。（3年女子）			

【今後の取り組み】
取り組みの継続と内容の見直し

外部指導者は地域での剣道の普及振興に携わっている方であり、生徒との信頼関係もできている方でもあるので、来年度以降も継続して指導をお願いしたい。また、生徒の実態を踏まえ、授業時数や内容については改善していく必要性を感じた。

1
 授業実践

本校には保健体育の教師に剣道経験者がいることから武道の授業を剣道とし、年間指導計画に位置づけている。各学年で8時間の授業を取り扱い、中学校3年間で24時間の取組になる。本校は剣道具が十分に整っていないことや、限られた時数から、剣道具を着けず、竹刀を使用した剣道（木刀による剣道基本技稽古法を含む）を



人吉市立第一中学校

中心とした学習を行っている。体育の授業で身につけさせたい項目は、幅が広い。その中で、技術指導を通した体力・技術の向上は、身につけさせたい力として中心にある。

しかし、それと同時に武道（剣道）の授業だからこそ、力を入れて学ばせたい内容があると考えている。それが、武道の特性ともいえる端正な礼の指導、他人を尊重し思いやる道徳心などである。そこで、武道の教育的価値が強く求められてきている今日、武道の特性を生かした本校での剣道授業の取組を紹介する。

(1) 礼法指導

剣道は、「礼に始まり礼に終わる」と言われているように、特に礼儀作法を重んじ、厳格に執り行



全校集会での座礼



授業の様子

相手を攻撃する対人的格闘技であることから、常に相手の人格を尊重するように指導する。そして、互いに身体を鍛え、技を錬磨し、心を養うためのよき協力者として、内には心から尊敬と感謝の念を持ちつつ、外には端正な姿勢を持つて礼儀正しくすることは、互いによりよい剣道を築き上げていく上で大切なことであり、ひいては好ましい社会的態度の育成につながる。

剣道を学習する際には、伝統的な考え方や行動の仕方が、感謝の

気持ちを表す礼、教え育んでくれる先生への礼、お互いに学び高め合う仲間への礼など、剣道の授業でしっかりと押さえ、学習したことを日常生活へもつなげるようにしている。

本校の体育館は「耕心館」と呼ばれ、昭和48年、体育館兼講堂が落成した際に、当時の校長が命名した。耕心とは人を耕すことである。その心とは「人間の魂」であり、「若き命」である。常に心眼を開き、はつらつとした若き命を育てんとする道場の謂れだと伝えられている。生徒達は、この耕心

館で学ぶことも多い。全校集会や学年集会時には、始めと終わりの座礼を正しく行い、礼法を大切にする心を育てている。

(2) 学習形態の工夫

剣道は中学校で初めて学習する内容であることから、基本動作と基本となる技を確実に身につけ、その動作や技を用いて、相手の動きの変化に対応した攻防ができるようにすることが求められる。

最初は一斉指導で行い、大切なポイントを伝える。先生と生徒、生徒同士等、場面によって学習形態を工夫しながら練習に取り組めるようにした。

(3) 技能習得の際に注意すること

剣道は対人的な種目であり、相手と直接的に攻防するという特徴がある。常に自分と相手と二人で協力して練習を行い、相手と一緒に技をつくりあげていくことを意識させた。

木刀による剣道基本技稽古法で

は、掛け手と元立ちの関係をしっかりと押さえ、相手と息を合わせ（合気になつて）動作を起こすことを大切にさせた。

【木刀による剣道基本技稽古法における指導（評価）の観点】

○構え…剣先の位置、木刀（竹刀）の持ち方、姿勢、構えの解き方。
 ○目付け…相手の目を中心に相手全体を見ているか。

○間合…打突前の一足二刀の間合、技終了時には横手あたりを交差させる間合がとれているか。

○打突…充実した氣勢で刀筋正しく、物打ちで後足の引きつけをとめない、一拍子で行っているか。合気となつて元立ちの与える機会を逃さず気合を込めて適正に行っているか。

○足さばき…すり足で正しい歩み足、送り足を行っているか。

○掛声…打突時に打突部位の呼称を明確に発声しているか。

○残心…打突後は油断なく相手に正対し、中段の構えで残心を示しているか。

剣道の指導計画（第1学年）

時	1	2	3	4	5	6	7	8
学 習 過 程	オリエン テーショ ン ・歴史 ・特性 ・礼法	・竹刀の 持ち方 ・中段の 構え ・足さば き ・素振り	木刀による剣道基本技稽古法				基本1～基本4 までを通した練習	
			基本1 面 小手 胴 突き	基本2 小手面	基本3 払い面	基本4 引き胴		
			判定試合				判定試合	

本格ピッチ刺剣道防具

二十年の歴史と技に育まれた純国産ピッチ刺
兼ね備えられた抜群の耐久性と使いやすさは
他の追随を決して許さない



NEW 天 UPDATE

以上のポイントを基本動作の指導でしっかりと押さえ、お互いに練習を進めるようにした。

○1年時に基本1「一本打ちの技」、基本2「連続技」、基本3「払い技」、基本4「引き技」を学習する。

○2年時に基本5「抜き技」、基本6「すり上げ技」、基本7「出ばな技」、基本8「返し技」、基本9「打ち落とし技」を学習する。

○3年時に既習の基本1～基本9までを通してまとめの学習とする。

技の練習では毎時間のまとめとして、練習の最後に判定試合を位置づけ、ポイントを押さえた技の習得ができたかを確認させた（前頁の表参照）。

剣道は竹刀を使い、基本となる技や得意技を用いて相手と攻防を展開しながら、互いに有効打突「一本」を目指して勝敗を競い合う運動である。剣道具を使用しての授業展開とはいかないものの、形や



授業の様子

姿として有効打突「一本」を目指すことを意識させた。

【授業を通しての生徒の感想】

○礼法について色々なことを初めて知った。礼の仕方も色々あるので、普段の生活でもきちんとしてできるようにしていきたい（男子生徒）。

○技を覚えるのが難しかったけれど、繰り返し練習することで少しずつ上手にできるようになった。大きな声で発声することを意識した（女子生徒）。

2 まとめ

○相手と呼吸を合わせるのが難しかった。相手をしっかりと見て

動きが合うようになった（女子生徒）。

中学校で初めて剣道を学習する生徒にとっては、怖いとか痛いなど、不安感を持っている生徒もいたが、剣道具を着用しないので抵抗なく参加でき、取り組みやすかったのではないかと思う。

相手と気持ちを合わせて、基本技を繰り返し練習することで技の習得はもちろん、対人性の深まりを生徒の姿からたくさん見ることができたのは成果と言える。

しかし、剣道具を整え、剣道具を着用し、実際に打突部を打ったり打たせたりすることで、より技の習得や有効打突の理解につながり、興味を引き出すこともできるのではないかと感じる。今後の実践につなげたい。



おどんな日本一全国少年剣道大会には九州内外から約1000人の剣士が参加する